

# バングラデシュで決めた 僕の将来



岩瀬 史明

(コミュニティ福祉学科 2007 年卒業)

## 自己紹介

東京都豊島区生まれ、小中高とサッカーに情熱を注ぐ少年時代を過ごしてきました。高校サッカーを引退した際に、これから何をしていけば良いのか全く分からずにいました。大学進学を視野に入れながらも、これからの長い将来・その中で自分に向いている仕事について漠然としすぎており、これからの進路に思い悩んでいました。

そんな中、膨大な大学案内のパンフレットを見ていた時“バングラデシュでのフィールドワーク”のカリキュラムがあるコミュニティ福祉学部案内に惹かれ受験を決意しました。当時無謀と周りから言われていましたが、無事に合格。今振り返ると、この当時はバングラデシュへの行きたいという強い思いというよりも当時の学力を踏まえ浪人を勧めてきた先生らを見返そうという思い一つだけだったような気がします(笑)。

## 大学入学後

念願のバングラデシュには岡田徹先生・そしてゼミの仲間の皆さんと一緒に03年(1年生)・04年(2年生)・06年(4年生)の合計3回渡航する事が出来ました。

それぞれの渡航には以下の通り、テーマを設けて現地へ行きました。

03年：バングラデシュの現状を現場で知るため・学ぶため(フィールドワークの一環)

04年：村に村人が学べる学校を建設するため・サッカーや日本の文化を伝えるため

06年：村のお母さん方に子供の成長やその過程を記録する健康診断の文化を紹介するため  
特に04年の学校建設を行った活動は、大学卒業後の進路をより深く考える契機となりました。将来は新興国の人々に密接に貢献できるような仕事に従事したいと思うようになりました。当初 JICA や JETRO など国際福祉の観点で進路を考えていましたが、新興国の人々とより現地または現場で密接に関わる事ができ、双方が一人称でしっかり win-win を考えることのできる(もっと言えば考えなければならない)“商売・事業”を通した関係を持てる総合商社を志望しました。

## 2013年の出来事

現在は、入社8年目。最初の4年間は半導体、その後4年間は資源を担当しております。日々、業務しながらもやはり気になるのはバングラデシュの存在でした。入社してすぐ、“入

社5年以内（2012年迄）にバングラデシュでビジネスを作り出張に行く！”という目標を立てました（残念ながら叶えることはできませんでしたが）

初バングラデシュの2003年から10年経った、2013年元旦。

僕はどうしてもバングラデシュに行きたく年末年始の休暇を使って建設した学校のある村を訪ねました。2013年1番最初に口にした食べ物はおせち料理でも雑煮でもなく、バングラカレーでした。将来を決めてくれた村の素朴で懐かしい味です。僕がバングラデシュに来たことを知り、村の至る所から駆け付けてくれました。あの頃はまだ幼い顔つきをした子供たちが逞しい青年になっていました。お互い鮮明に覚えているものです。彼らは、感慨に耽る時間すらくれずに僕の手を取り、10年前のあの時、一緒に遊んだサッカーや鬼ごっこ・かけっこなどを再び楽しみました。子供たちの力はとても強く頼もしい限りです。どんな遊びも手を抜かず真剣な顔つきは変わらず。その一方でインフラや生活水準は課題がまだまだありながらも、少しずつ改善されている様子でした。バングラデシュにおける変わってほしいもの・変わってほしくないものを一気に感じる事が出来た旅でした。

### 現在の仕事

今年の春からマレーシア・クアラルンプールに転勤し、駐在員として生活しております。

現地パートナーと新しく立ち上げる資源会社のプラント建設開始前の工程管理やプラント建設中の進捗フォロー、建設完了後の製品出荷後の販売戦略策定などプロジェクトの全体管理を多岐に渡る内容の業務を担当しております。志望動機して挙げていた“商売・事業”を通した関わりを持つことが出来ている今の環境に大きなやりがいを感じています。

### 最後に

他者（特に新興国の人々）との関わり方や相手の立場に立って物事を深く考えるという基本動作・思考はコミュニティ福祉学部の4年間で多くの事を学ぶことが出来ました。福祉と聞いて思い浮かぶのはボランティアや援助というのが一般的だと思います。ですが、僕の中の福祉の定義は、“（民間企業の収益活動において）相手の立場にしっかり立ちwin-winの関係を継続しどのように双方が利益を追求することができるかを誠実かつ真剣に考えること”だと考えています。

そうは言いつつも、私生活では国際ボランティアや援助に100%でぶつかっていきたいと思ってしまうのはコミ福魂でしょうか。バングラデシュにはこれからも定期的に訪問し、子供たちの様子や国の発展を間近で肌で感じていきたいというのは強く思っています。マレーシアからバングラデシュは3～4時間あれば行けてしまう距離です。この環境は、僕自身の将来に対して大きくも温かい指針をくれたバングラデシュからの贈り物だと思っています。このバトンは岡田ゼミを通して出会い、バングラデシュにも一緒に行った西郷民紗さんに託します。民紗よろしく！